



田中敦子《作品》 1958年
兵庫県立美術館(山村コレクション)
© Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association

兵

兵庫県立美術館の前身である、兵庫県立近代美術館が1970年に開館してから50年。昨年開館50周年を迎えた兵庫県立美術館では、記念展として「開館50周年 今こそGUTAI 県美の具体コレクション」が開催されている。

具体美術協会は1954年に、吉原治良を中心に結成され、吉原の逝去により1972年3月に解散した前衛芸術グループだ。戦後の日本美術を語る上で欠かせない「GUTAI」として、国際的にも高い評価を受けている。会名は「精神が自由であることを具体的に提示」という理念に沿って名付けられた。吉原の「人のまねをするな」という指導の通り、斬新な作品制作やパフォーマンスが特徴である。

初期の具体作家は、パフォーマンスや大掛かりなインスタレーション、ハプニング性に重きを置いた作品を多く発表する。村上三郎は木枠に貼った紙を突き破る「紙破り」を、嶋本昭三はボトルに詰めた絵の具をキャンバスに置いた石へ投げつける「投擲絵画」を発明するなど、新奇な手法や派手なアクションといった、行為性と物質性が際立っていた。一方で、山崎つる子や白髪富士子らのように、パフォーマンスなどの行為性を重視しなかった作家たちも所属していた。彼らもまた、グループの中で重要な位置を占め、特徴的な作品を作り出してきたのだ。その作品には、新素材への鋭敏な感



白髪富士子《作品》 1960年
兵庫県立美術館(山村コレクション)



今井祝雄《白のセレモニー・HOLES#6》 1966年
兵庫県立美術館 © Imai Norio



特別展 開館50周年

今こそGUTAI

ケンビ
県美の具体コレクション

開催中 ▶ 2月7日(日)

兵庫

兵庫県立美術館

Hyogo Prefectural Museum of Art